

## ひおき会議宣言

我が国は四季を楽しむ自然環境に恵まれながらも、洪水・豪雪・地震・津波・降灰等の災害多発国で、この災害の多い狭小な国土に1億3千万人程の国民が生活しています。近代化政策がとられた明治以降、多くの公害・環境問題が発生しました。そして、地球温暖化対策のように、今日の環境問題の多くは、すべての市民が身近な生活改善を行うことを求めています。

今回、私たちは「未来へつなごう自然との共生 ～白砂青松とウミガメの里吹上浜からの発信～」をテーマに、東シナ海に面し吹上浜を代表とする豊かな自然に恵まれた日置市で、第21回目の環境自治体会議に集いました。過去20回の環境自治体会議で積み重ねられた知識や経験に加えて、ひおき会議3日間の交流を通して、取り組むべき問題の現状と解決法やこれからの行動指針を学ぶことができました。そして、地域の先人が大事にしてきた地域固有の自然や生活の智慧、および持続性のある生産スタイルなどを理解したうえで、地域の将来を考える「温故知新」型の話し合いに基づく具体的な行動の大切さも学びました。私たち市民は、美しい自然景観やそこで生きる生物を守り、後世に残していく責務を強く感じ取りました。また、同時に、それぞれの地域特性を生かした持続的な「まちづくり」と「ひとづくり」の必要性やその実現の道すじを共有できたことは、この「ひおき会議」の大きな収穫と言えます。

薩摩の先人曰く「泣こよか、ひっ飛べ!」。環境問題を論じるだけで悲観的になるよりは、明るい未来を求めて具体的に行動しろという事でしょう。私たちは、次世代に残すべきより良い自然環境を守り続けながら地域の発展を図ることを互いに確認し、次のとおり宣言します。

- 1 【守って活かす】自然、モノ、人といった地域資源の潜在的価値を見だし、再生能力を損なわない範囲で活用し続けることで、自然環境を愛して保全し、自然と共に生きる意識の醸成と住みよい社会づくりを進めます
- 2 【つないで生み出す】資源、人、くらしの3つを結びつけ、生産物・副産物やサービスを生産者と消費者との信頼関係に基づき地域内で循環させることで、自立した経済システムを構築します
- 3 【学んで行動する】地域内外の人との信頼関係や交流、ネットワークを維持し、地域活動が日々の暮らしの中で無意識に実践できるような人づくり・地域づくりをめざした教育を、学校および生涯学習の場で進めます
- 4 【信じて助け合う】環境自治体会議が21年間培ってきた信頼関係に基づく地域間連携や住民・事業者との協働活動を一層強化し、共通の目標達成のために、共に取り組みを進め実績を積み上げます

平成25年6月1日

第21回環境自治体会議ひおき会議参加者一同